

みえの子ども白書 2016 について

1 作成の趣旨

「みえの子ども白書 2016」は、「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」のめざすべき社会像である「結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つことのできる三重」の実現に向けた取り組みの参考とするために、三重県子ども条例に基づき作成したものです。作成にあたっては、子どもや保護者、地域の大人等の意識や状況などについてアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめました。

白書の作成は平成24年3月の「みえの子ども白書 2012」に続き2回目となります。

2 子ども・保護者・県民アンケート調査の概要

(1) 調査時期 平成27年7月～8月

(2) 調査対象、件数等

子ども調査	小学5年生	市町毎に市町立小学校各1校、特別支援学校3校、私立小学校1校から抽出 有効回収数 1,236件
	中学2年生	市町毎に市町立中学校各1校、特別支援学校3校、私立中学校1校から抽出 有効回収数 1,533件
	高校2年生	県立高校11校、特別支援学校3校、私立学校1校から抽出 有効回収数 1,103件
保護者調査	上記の小5、中2の保護者	有効回収数 2,424件
県民調査	各市町の選挙人名簿に基づき無作為抽出	有効回収数 1,441件

3 主な調査結果と方向性 ※()内は本冊の掲載頁

(1) 子どもの自己肯定感(p.26)

①主な調査結果

- ・「自分のことが好き」と答える子どもは増加。(p.26)
※小学生70.7% (+4.1)、中学生59.1% (+15.2)、高校生48.5% (+10.4)
- ・「大人は意見を聞いてくれる」と答える子どもほど「自分のことが好き」と答える割合が高い。(p.52)
※「自分のことが好き」と答えた小学生
大人は意見を「いつも聞いてくれる」と答えた小学生の78.5% 40.0ポイント差
「まったく聞いてくれない」と答えた小学生の38.5%
- ・「家庭や地域、学校などで大切にされている」と感じる子どもほど「自分のことが好き」と答える割合が高い。(p.47)
※「自分のことが好き」と答えた小学生
大切にされていると「感じる」と答えた小学生の86.3% 68.0ポイント差
「感じない」と答えた小学生の18.3%

②方向性

子どもの自己肯定感を高めるには、地域や家庭、学校などにおける周囲の大人の関わりが重要

(2) 地域との関わり

①主な調査結果

- ・学校の出来事を家族と話す子どもは増加。(p. 38)
※小学生 84.5% (+2.1)、中学生 80.0% (+4.4)、高校生 83.0% (+11.2)
- ・子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思う大人は減少。(p. 62)
※子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思う県民の割合 60.3% (△6.0)
- ・近所の大人からほめられたことがある子どもほど「自分のことが好き」と答える割合が高い。(p. 68)
※「自分のことが好き」と答えた小学生
ほめられたことが「よくある」と答えた小学生の 80.7%
「ない」と答えた小学生の 49.5% 31.2 ポイント差

②方向性

子どもの育ちや子育て家庭を支える地域の力を高めることが重要

(3) 子どもの体験や経験

①主な調査結果

- ・子どもを自然の中で遊ばせている保護者ほど、子どもが初めて会った人に自分から話しかけることができると回答。(p. 64)
※「子どもが初めて会った人に話しかけることができる」と回答した保護者(小5)
子どもを自然の中で「遊ばせている」と回答した保護者の 53.6%
「遊ばせていない」と回答した保護者の 33.3% 20.3 ポイント差
- ・子どもと一緒にスポーツを楽しんでいる保護者ほど、自分の子どもが近所の人にあいさつができると回答。(p. 65)
※「子どもが近所の人にあいさつができる」と回答した保護者(小5)
子どもと一緒にスポーツを「楽しんでいる」と回答した保護者の 91.5%
「楽しんでいない」と回答した保護者の 74.5% 17.0 ポイント差

②方向性

自然体験やスポーツなどを楽しむことができる環境づくりが重要

(4) 高校生の結婚観や家族観

①主な調査結果

- ・高校生の 13% は結婚したいと考えておらず、16% が子どもをほしいと考えていない。(p. 74、p. 76)
- ・赤ちゃんとのふれあいや小さい子どもと遊んだことがある高校生ほど、いつかは結婚したい、いつかは子どもがほしいと回答する割合が高い。(p. 75、p. 77)
※「いつかは結婚したいと思う」と回答した高校生
赤ちゃんとのふれあったことが「何度もある」と回答した高校生の 90.2%
「まったくない」と回答した高校生の 71.9% 18.3 ポイント差
※「いつかは子どもがほしいと思う」と回答した高校生
小さい子どもと遊んだことが「何度もある」と回答した高校生の 88.6%
「まったくない」と回答した高校生の 69.0% 19.6 ポイント差

②方向性

若者が結婚や子どもを持つことに関心を持てるよう、ライフプラン教育が重要

(5) 仕事と子育て等の両立

①主な調査結果

- ・若い世代ほど「父親も育児に積極的に参加すべき」と考えている。(p. 80)
- ※「父親も母親と育児を分担して積極的に参加するべきと回答した割合
全体：46.0% 20～29歳：57.1%

②方向性

仕事と子育て等の両立を希望する男女がともに働き続けることができる職場環境づくりが重要

(6) 祖父母世代の子育て支援

①主な調査結果

- ・県民の約90%が祖父母による育児・家事の手助けが望ましいと感じている。(p. 81)
- ・理想の住まい方は妻の親との近居が25.9%で最も高く、65.9%が三世代の同居や近居を希望している。(p. 82)

②方向性

祖父母世代の子育て支援が進むような環境づくりが重要

4 今後の方針

県では、子どもたちの笑顔や子育ての喜びあふれる地域社会づくりに向けて、本白書の内容もふまえ、教育委員会等関係部局と連携も図りながら取組を進めるとともに、県民の皆さんに、家庭や地域、学校などにおける子どもとの関わり等について考えていただけるよう、様々なイベントの機会などを通じて白書の内容を周知していきます。